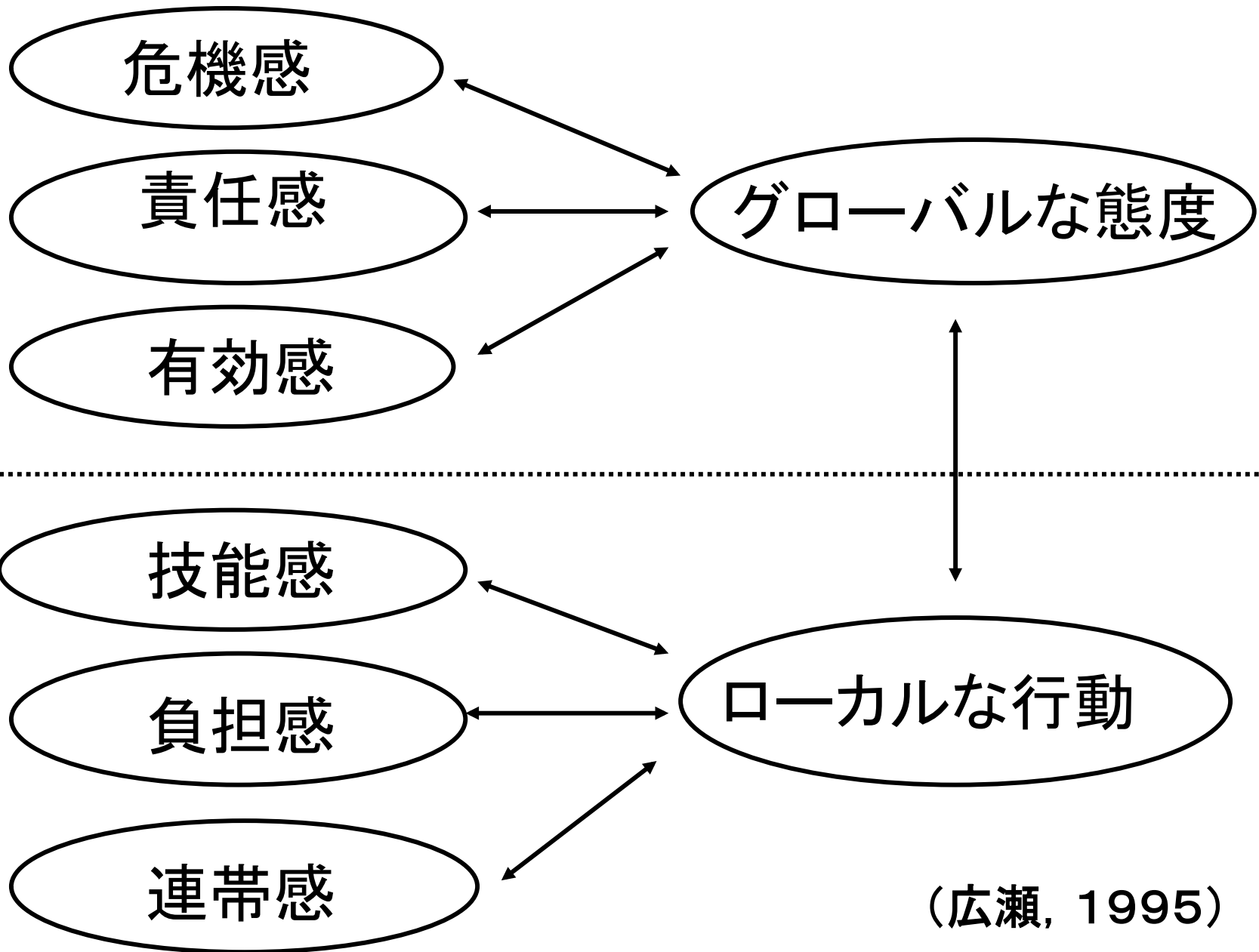


# 環境配慮行動を促す環境 教育のプログラム

# 環境学習の目的

- 地球規模や地域における環境と人間との相互依存についての認識を深めること
- 環境への配慮や保全に積極的に取り組もうとの態度を養うこと
- 環境保全や環境配慮の具体的な行動のための知識・技術を身につけること
- 具体的な行動をとることにより、環境に関わるエンパワーメントを獲得すること



(広瀬, 1995)

# 親から子への環境教育の調査

(依藤, 2000)

- 親子の会話による環境問題への関心喚起(弱い効果)
- 親のしつけによる子どもの行動の形成(効果みられず)
- モデルとしての親の環境配慮行動による観察学習(強い効果)

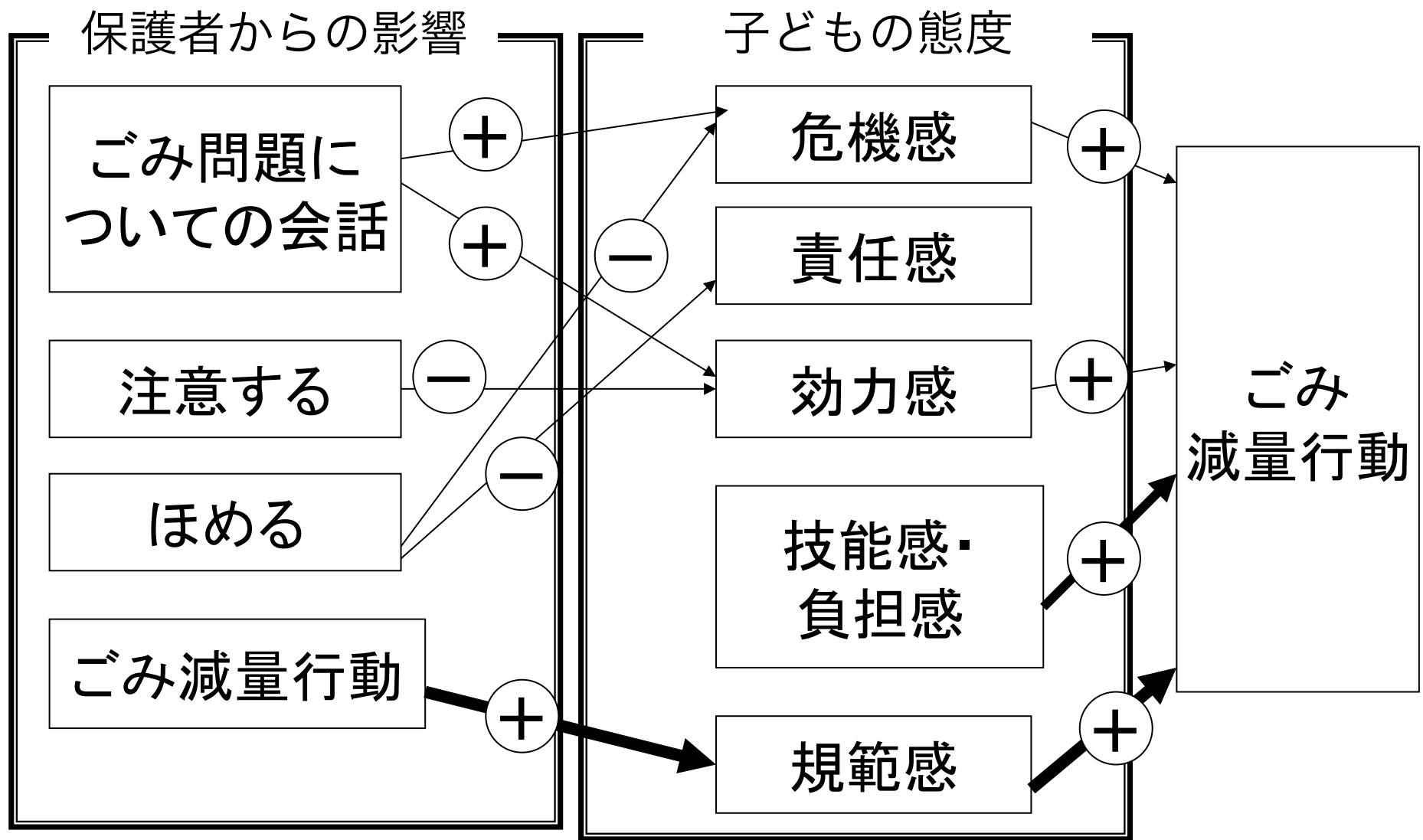


図2.子どもの態度、行動に及ぼす保護者の影響(依藤、2000)

注1) +は正の関係、-は負(逆)の関係

注2) 太い矢印は強い関連、細い矢印は弱い関連

# 環境学習の新たな課題

- **体験型であること**  
環境と人間活動の複雑な因果連関を具体的な体験として理解する
- **参加型であること**  
環境保全への主体的な取り組みによって、エンパワーメントを高める

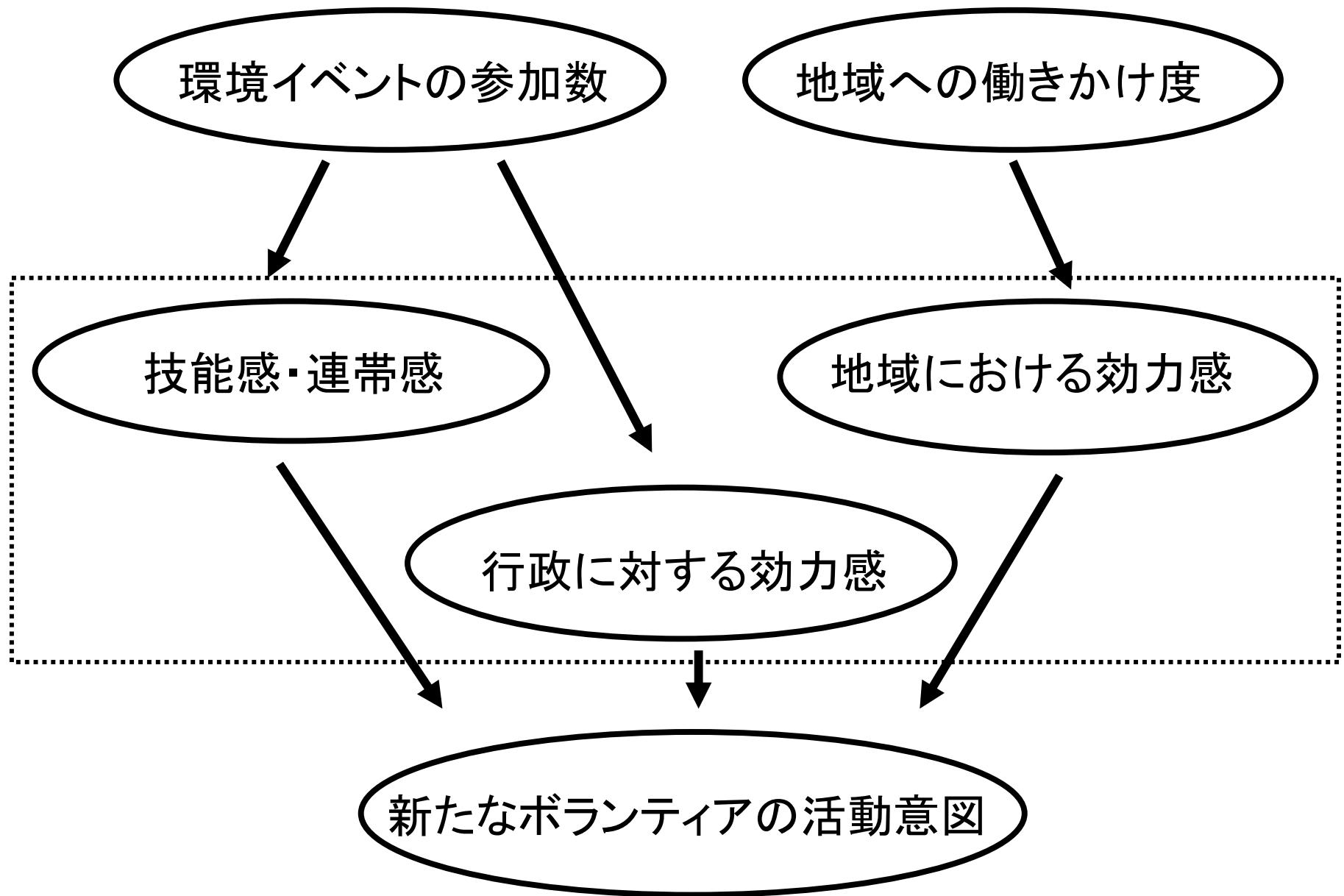


図3 環境ボランティアのコミットメントとエンパワート

# 環境学習の内容とその評価

- ゲームシミュレーションによる仮想体験  
複雑な問題とゲーム体験との関連づけ  
ゲームの面白さと環境への関心の関連
- 環境ボランティアとしての地域活動への参加  
環境保全の体験による技能・能力の育成  
ネットワーキングによる連帯感の形成



# 環境学習の目的

- ①地球規模や地域における環境と人間との相互依存についての認識を深めること
- ②環境への配慮や保全に積極的に取り組もうとの態度を養うこと
- ③環境保全や環境配慮の具体的な行動のための知識・技術を身につけること
- ④具体的な行動をとることにより、環境に関わるエンパワーメントを獲得すること

# 親や学校での環境教育と こどもの環境意識行動の調査

(依藤・広瀬)

- ごみについての学校教育の効果はあまり大きくない？
- 環境についての親子の会話は子どもの意識に少し効果がある
- モデルとしての親の行動こそ、子どもの行動に大きな効果がある！

# 環境学習に何が必要なのか

- 環境問題の知識を教えるだけでは、具体的な保全行動につながらない
- 自分たちの行動と環境との関連が目に見える形で実感できないと興味はわかない
- 小さな活動でもそれによって達成感が体験できることが必要だ
- 一人でなく、みんなと協力して保全に取り組めれば、勇気をえることができる

# 環境学習の新たな課題

- 体験型であること

WHY? 環境と人間活動の複雑な因果  
連関を具体的な体験として理解できるから

- 参加型であること

WHY? 環境保全への主体的な取り組み  
によって、エンパワメント(やればできる  
の自信)を高めることができるから

# では具体的にどんな 環境学習がいいのか？

- 環境ゲームによる仮想体験  
複雑な環境問題とゲームの面白い体験をつなげることで、環境保全への関心とやる気を高められる
- 環境ボランティアとしての地域活動への参加  
環境保全の体験による技能・能力を高め、多くの人との協働ネットワークができる